

富士山麓エリア

(1) 事業概要

地方自治体：静岡県、沼津市、三島市、富士宮市、富士市、長泉町

課題：「ゲノミクス及びプロテオミクスを応用したがん等の診断薬、診断機器の開発」

中核機関：財団法人 しずおか産業創造機構ファルマバレーセンター

核となる研究機関：情報・システム研究機構国立遺伝学研究所、静岡県立静岡がんセンター研究所、東海大学開発工学部、国立沼津工業高等専門学校

概要：富士山麓エリアは、製薬企業をはじめとするバイオ関係企業などの研究所、工場が数多く立地し、医療関連産業が基幹産業の一つとなっている。こうした中、静岡県では、「ファルマバレープロジェクト」を策定し、産学官の連携と協働により、先端的な研究開発の推進と医療の質の向上、新産業の創生と既存産業の活性化を基本戦略として定め、健康関連産業の振興と集積を推進している。

本事業においては、遺伝子研究の成果を応用したがん診断法の開発により、がん診断に有効な基盤技術を確立するとともに、タンパク質解析技術などを応用した腫瘍マーカーの検索とがん診断システムの開発により、がんを早期に発見する診断薬や診断機器を開発する。将来的には、がん等の早期かつ的確な診断技術をもとにしたバイオ・メディカル系ベンチャー企業の創生により、医療関連産業の一大集積地を目指す。

(2) 評価

本地域では、国立遺伝学研究所の遺伝子研究のシーズと静岡がんセンターのがん医療のニーズを背景に、地域の大学・研究機関や企業の技術開発力をもとに、「ゲノミクス・プロテオミクスを応用したがん等の診断薬・診断機器の開発」を目指して、研究成果の積極的な特許化や地域の産学官連携基盤の構築・強化が図られた。事業計画については、資金、人材等の資源配分がきめ細かく配慮されて、策定されているとともに、必要に応じて、見直しが行われるなど、評価できる。

連携基盤については、「ファルマバレープロジェクト交流会、研究セミナー」の継続的な開催や「富士山麓産業支援ネットワーク」の設置・運営等を通じ、持続的・横断的な産学官の連携体制が構築されてきたとともに、「富士山麓ファルマバレーバイオネットワーク」が経済産業省の「首都圏バイオ・ゲノムベンチャーネットワーク」の1拠点組織として、人的ネットワークの構築やバイオベンチャーの育成が図られるなど、優れた取組として評価できる。

研究開発については、「ゲノミクスグループ」及び「プロテオミクスグループ」ともに、多くの研究成果に基づく積極的な特許出願や事業化につながる試作が行われるなど概ね優れた成果を上げていると評価できる。しかしながら、がん診断法の基盤技術や診断薬・診断システムとして、事業化につながる具体的な可能性を示す研究成果・データが多少不足してお

り、また、特許出願と事業化との関連性がやや薄いように思われる。研究計画については、診断薬・診断システムの可能性を明らかにするため、進捗状況に応じて、特許出願技術の可能性試験を実施するなどの重点化・見直しが多少不足していたように思われる。今後は、事業化につながる研究成果の有効性の検証や他省庁の事業化のための事業への展開等について、検証していく必要がある。

地域の取組については、本事業を、県の「富士山麓先端医療産業集積構想(ファルマバレープロジェクト)」の中核として、位置づけ、県単事業である「創薬探索研究事業」や「静岡県治験ネットワーク」等とも、密接に連携しているほか、「静岡がん会議」等の開催により、がん研究分野での人的ネットワークを強化するなど、積極的な取組として高く評価できる。今後は、本研究成果を広く社会へ還元させるため、県の「ファルマバレープロジェクトの第二次戦略計画(平成19年度から22年度)」の中で、一層強力に推進していくことが期待される。

(3) 項目別評価結果

1. 目標達成度		3.9
2. 事業計画		3.3
3. 事業成果	(1) 連携基盤の構築	3.7
	(2) 研究開発の成果	3.4
4. 地域の取組	(1) これまでの取組	3.9
	(2) 持続性・自立性	3.9